

平成21年度アイヌの伝統的生活空間の再生事業の状況

資料 1

<白老地域>

項目		事業名・事業概要	21年度の事業項目	21年度の実施結果	年度評価	次年度の課題等
推進体制		教育（学習）型イオルを指向し、実践的な活動を通じた伝承者の育成や、アイヌ文化の体験を通じた普及啓発活動を実施	植栽地(H18-19)の維持管理、試験栽培、空間整備（コタンの再生）、体験交流等を実施	・ 財団が直接執行するものの他、業務の内容に応じ、（財）アイヌ民族博物館、一般社団法人「白老モシリ」、白老町に委託し、実施 → （財）アイヌ民族博物館 …試験栽培業務、チセ復元業務、伝承者育成業務他 一般社団法人「白老モシリ」 …植栽地の維持管理業務 → 白老町 …管理運営（北海道アイヌ協会 白老支部、アイヌ民族博物館との連絡調整等）	○ 自然素材の育成、試験栽培、空間の整備（コタンの再生）等を通じて将来に向かって白老地域のアイヌ文化を護り継ぐための教育（学習）型イオルの形成が促進が図られた。一般社団法人白老モシリを中心に地域のアイヌの人々の手で事業が推進されている。	・ 今後の事業執行体制に関する課題（受託事業の受皿）の整理 → 白老町が代表団体となり地域実施事業の一括受託の検討 ・ 白老イオル事務所チキサニ、白老モシリ、アイヌ民族博物館等との役割分担の検討
					△ 事業のより円滑な推進を図るためには、二地域（白老、平取地域）の当該年度の事業実施内容を早期に固めて、年度の早い時期から具体的な事業に取り組む必要がある。	・ 地元要望、予算要求、執行に至るプロセスの改善
				・ 白老イオル事務所「チキサニ」において、情報提供等を実施		
空間形成	植栽	植栽地の維持管理 → 自然素材の育成を図るため ・ 陣屋地区 ・ ポロト自然休養林地区 ・ ポロト地区 の維持管理等を実施	平成18、19年度に植栽した樹木等の維持管理	一般社団法人「白老モシリ」へ業務委託し、実施した。 ・ 保育観察、除草・草刈等の維持管理業務を実施	○ 自然素材の維持管理が図られた。	・ 事業実施箇所の計画的な維持管理 （中長期） ・ 事業実施箇所の計画的な維持管理 ・ 生育した自然素材のアイヌ文化伝承のための活用
		体験学習 → アイヌ文化への理解の促進を図るためイオルの森での「森づくりの体験学習」を実施	ポロト自然休養林地区における「森づくりの体験学習」として補植や枝払い、間伐の実施	胆振東部森林管理署との協定に基づき活動計画を策定し実施する予定であったが、活動計画の策定、事業の実施ともに未実施	× 子ども達にできる作業がなかったため、体験事業は、未実施。 ・ 下草刈等は、実施	・ 「イオルの森づくり活動に関する協定」に基づく、活動計画の策定と事業の実施 （中長期） ・ 「イオルの森づくり活動に関する協定」に基づく、活動計画の策定と事業の実施

項目		事業名・事業概要	21年度の事業項目	21年度の実施結果	年度評価		今後の課題
空間形成	試験栽培	試験栽培事業 自然素材の確保を図るため ・森野地区 ・ヨコスト地区 での試験栽培を実施	穀物、苗木の試験栽培（森野地区） ※面積：1.0ha	（財）アイヌ民族博物館へ業務委託し、実施した。 ・穀物（ヒエ、アワ、キビ） ・苗木の試験栽培を実施（森野地区） オヒョウ、イヌエンジュ他15種類、延べ1,043本	△ 天候不順により、生育が良くなかった。 ○ 生育状態順調		・試験栽培結果の分析、評価 ・いわゆる自然素材育成の循環の仕組みの検討 …試験栽培した樹木の移植のサイクル等
							（中長期） ・本格的な栽培展開 ・いわゆる自然素材育成の循環の仕組みの検討と構築
			有用・薬用植物の試験栽培（森野地区）	（財）アイヌ民族博物館へ業務委託し、実施した。 ・有用・薬用植物の試験栽培を実施（森野地区）：15種類	△ ギョウジャニンニク等は、順調に増殖。ヤマブメ等に枯死あり。		・専門家の意見も参考にしつつ、有用・薬用植物を分類、整理 ・必要量の把握、活用方法の検討 ・試験研究結果の分析、整理
							（中長期） ・希少植物の増殖等本格的な栽培
	海浜植物の試験栽培（ヨコスト地区）	（財）アイヌ民族博物館へ業務委託し、実施した。 ・海浜植物の試験栽培を実施（ヨコスト地区） …平成18年度実施箇所においてハマボウフウの種子（270g）を植え付けし、雑草の除去、柵等の維持管理を実施	○ 種子で植えたハマボウフウの生育状況は良好である。		・試験栽培の結果の分析		
					（中長期） ・分析結果の反映、応用 …本格的な栽培		
		各地区共通業務 ・保育観察、定期巡視業務の実施		○ 保育観察、定期巡視業務の実施			

項目		事業名・事業概要	21年度の事業項目	21年度の実施結果	年度評価		今後の課題
空間形成	空間整備	空間整備（コタン再生） →白老地域のイオルの核となる空間（コタン）の再生	ボロト地区のコタンの再生		○ チセの復元及び周辺環境整備によって、教育（学習）型イオルの拠点の形成が促進された。		・ 復元したコタン（チセ等）の計画的な活用と維持管理 …コタンにおける事業展開、チセ等の維持管理
			・ チセの復元と活用	・ チセの復元(2棟) ・ 「チセ」においての普及啓発とアイヌ文化伝承			
			・ チセ周辺の環境整備	チセ周辺の環境整備 ・ 園路整備			
			・ コタンの充実	コタンの充実 ・ 白老イオルコタン整備実施計画の策定	○ 白老イオルコタン整備実施計画を策定した。		
空間活用	体験交流	体験交流 →アイヌ文化への理解の促進を図るため、体験交流事業を実施	海、山、川に お いての体験交流事業の実施	白老イオル体験交流推進協議会が実施 ・ 海のイオル体験交流事業 …山だて漁体験 →75名参加(21.7.16) ・ アイヌ文化体験・体感交流事業 …子ども達に伝えたいアイヌ文化講座 →149名参加(21.7.28~29) ・ 海のイオル体験交流事業 …アイヌ民族の漁文化と自然との関わり方学習事業 →84名参加(21.9.6) ・ 川のイオル体験交流事業 →39名参加(21.9.29) ・ ミニ体験学習…アハ豆堀り体験 →15名参加(21.11.23) ・ 山のイオル体験交流事業 →22.2実施予定 ・ 山のイオル宿泊体験交流事業 悪天候のため中止	○ 体験交流事業を通じて、町内外の参加者が楽しみながらのアイヌ文化の理解促進を図った。また事業がマスコミ等で周知されることにより、アイヌ文化、イオル事業への関心を高めた。 地域のアイヌの人々が指導員等として参加することにより、自らアイヌ文化に携わる意識付けに繋がった。 事業の決定が遅れ、春先の事業の実施が出来なかった。		・ 効果的な事業の継続的实施。

項目		事業名・事業概要	21年度の事業項目	21年度の実施結果	年度評価		今後の課題
空間活用	体験交流		体験交流指導者の育成	(財)アイヌ民族博物館へ業務委託 ・ 体験交流指導員候補者に対して、養成事業を実施 <対象者> アイヌ協会会員及びその子弟(高校生以上)他延べ50名、各年度12回実施	○	体験交流指導員の養成が図られた。受講生を中心に新たなアイヌ文化サークルが設立されるなど、裾野の拡大に繋がっている。	・ 高校生、大学生等の若い世代の指導者の増加
							(中長期) ・ 継続的な指導者の育成
空間管理運営	イオル事務所運営	白老イオル事務所「チキサニ」運営	チセ等の維持管理	チセ等の維持管理…火守業務の実施→チセ屋内、屋外の清掃業務、チセ周辺の草刈作業、除雪作業、来訪者へのチセの説明業務	○	火守によるチセの保全に努めるとともに、アイヌ文化の理解の促進を図った。	・ (中長期) チセを長期間維持するための日常的な維持管理に関する検討 (中長期) ・ チセが劣化した際の屋根、壁等の茅の葺き替え
			アイヌ民族や文化に関する学習機会や情報の提供	アイヌ民族や文化に関する学習機会や情報を提供 ・ 来所者数：4,000人(H20.5～) ・ 「イオルの森に住まう美しい鳥たち展」等の企画展を計7回実施。 ・ 地元のアイヌ関連サークルの活動場所として提供した。	○	アイヌ文化に関する情報提供等を行った。	・ 次年度以降の事業執行計画及び業務執行体制の検討 ・
	管理運営	管理運営事業…白老町役場による関係機関等との連絡調整	総合的に管理運営するための関係機関との連絡調整等	白老町役場が北海道アイヌ協会白老支部、(財)アイヌ民族博物館等との連絡調整を実施 →白老イオル連絡調整会議、白老地域イオル検討委員会等を開催し、白老地域での事業の検証及び、計画の素案を調整。	○	白老町役場が関係機関等との連絡調整等を行った。	・ より効果的な管理運営方法の確立

平成21年度アイヌの伝統的生活空間の再生事業の状況

<平取地域>

項目		事業名・事業概要	21年度の事業項目	21年度の実施結果	年度評価		次年度の課題等
推進体制		活動型イオルを指向し、イオルの森等を活用して植栽、試験栽培を行うとともに、コタンでの伝承活動を実践	空間整備（コタンの再現）、自然素材の試験栽培、体験交流等を実施	財団が直接執行するものの他、業務の内容に応じ平取町に委託し実施	○	空間の整備（コタンの再現）、自然素材の試験栽培等を通じて将来に向かって平取地域のアイヌ文化を語り継ぐための活動型イオルの形成が促進された。	・ 専門家との協働による業務の実施等 （中長期） ・ 事業執行体制…将来を見据えた受託組織の確立
					△	事業のより円滑な推進を図るためには、二地域（白老、平取地域）の当該年度の事業実施内容を早期に固めて、年度の早い時期から具体的な事業に取り組む必要がある。	・ 地元要望、予算要求、執行に至るプロセスの改善
空間形成	空間整備	空間整備（コタンの再現） →平取地域のイオルの核となる空間（コタン）の整備	二風谷地区のコタンの再現 ・ チセの復元	・ チセの復元（2棟）	○	チセ、付帯施設の復元を通じて伝承者の育成と活動型イオルの形成が促進された。	（中長期） ・ 復元したチセの計画的な活用と維持管理に関する検討 ・ カヤの確保
			・ 付帯施設の復元	・ チセ付帯施設を復元 …プ（倉）、ペペレセツ（熊おり）、オッカヨル、メノコル（トイレ）	○	付帯施設の復元を通じて技術の継承（伝承）が図られた。	（中長期） ・ 復元予定の付帯施設を計画的に整備
			・ コタン周辺の整備	・ コタン周辺の整備を行った。 …土地整正、盛土、築山、誘導路（一部）	○	コタン周辺の整備を図った。	・ コタン内の計画的な維持管理・保全管理が必要。 （中長期） ・ コタン内の計画的な維持管理・保全管理が必要。

項目		事業名・事業概要	21年度の事業項目	21年度の実施結果	年度評価	次年度の課題等
			・チセにおける伝承活動の実践	・ポロチセにおいて伝承活動を実践した。 …トマ編み（オキタルンペ、イナウソ制作実践ほか） …伝統工芸（生活民具複製）の実践	○アイヌ文化の伝承が図られた。	・厳寒期の暖房環境が整えば、効果的な活用方法、実践活動が可能。 ・担い手の育成が急務。 ・自然素材の確保。
空間形成	試験栽培	試験栽培事業 →自然素材の確保を図るため、イオルの森の条例制定、二風谷地区での試験栽培を実施	・イオルの森の条例制定	・平成21年9月開催の町議会定例会においてイオルの森条例を制定した。	○イオルの森条例が制定された。イオル先行実施地域として、対外的に文化振興策として強い意思表示を示していきたいとの理事者の考え方、または町議会、町民との数度に渡る協議、説明会を開催し理解を得る事ができ制定された。	・一定のルールの下での自由な自然素材採取方法の検討 ・指定管理者制度への移行手続き ・継続して町民に理解を得ていくため、随時、説明会や意見交換会を開催する。
			・イオルの森の現況調査の実施	- イオルの森の現況調査を実施した。 …現況調査：草本、木本	○草本、木本の現況調査を実施した。	・イオルの森において事業展開（植栽等）を計画的に実施する必要がある。 - 適期に移植作業を行う必要。 ・芽の出ない品種の専門的分析と育苗技術の確立。
			・試験栽培の実施	・国有林から稚樹（386本）の払い下げを受け、苗畑に移植した。 ・苗畑に移植した苗木の成長記録と管理、播種した苗の育苗管理、新たに育苗箱による養苗を行った。	○降雪により山だしできない稚樹の移植が完了していない。 ○苗木の成長記録、育苗箱による養苗等を行った。	（中長期） ・イオルの森への適切な移植作業方法等の研究が必要。中長期にわたり専門家の指導が必要。

項目		事業名・事業概要	21年度の事業項目	21年度の実施結果	年度評価		次年度の課題等
			・イオル型複層林の造成	・イオルの森実験研究計画に基づく施業のための選木作業、森を管理するための作業路整備を行った。 ・選木作業 279本（127.74㎡） ・管理用作業路：基盤整備、室蘭開発建設部、土工（一部）、イオル事業	△	選木作業に時間を要し、伐採・搬出作業が出来なかった。	・択伐施業、搬出は、専門的な技術、知識、能力を有した方の協力が必要。 ・通年の巡視と維持管理が必要。
					○	管理用道路の整備を行った。	・（中長期） 中長期を踏まえた計画（実験研究計画）に基づき、長期的視野にたった森づくりが必要。
空間形成	試験栽培	試験栽培事業	・ヌツカトイ（丘畑）での試験栽培（二風谷地区）	・ヌツカトイ（丘畑）での試験栽培を実施した。 …ヒエ、アワ、キビ、マメ、ソバ→3,872平方m	○	ヌツカトイ（丘畑）での試験栽培でアワの品種選択を考える必要があった。アマム（穀物）の利用量の把握が不十分であった。	・試験栽培を計画的に実施する必要がある。 ・成果物（穀物等）を事業目的に即し、有効活用を図る必要性がある。
			・アマムトイ（穀物畑）、ポント（小さい沼）、モセウシ（茅場）の整備及びカヤ等の試験栽培（本町地区）	・本町地区の水辺空間整備及びアマムトイ、ポント、モセウシにおいて一部試験栽培を実施した。 ・基盤整備：かわまち支援事業 ・導水管渠・集水桝：イオル事業 ・試験栽培 …アマムトイ→基盤整備の遅れから緑肥作業未実施 …ポント→ガマ、900平方m、約50株移植	○	概ね予定どおり実施したが、基盤整備（第1期工事）に遅れが生じ一部作業が出来なかった。	・事業実施箇所の適正な維持管理が必要。
					×	実施予定の緑肥作業が基盤整備の遅れにより出来なかった。	・成果物（穀物等）を事業目的に即し、他地域への供給を含めた有効活用を図る必要性がある。
					○	移植した株数は少なかったが、概ね予定どおり実施した。	・22年度移植するガマの生息状況の把握と適切な保育管理

項目		事業名・事業概要	21年度の事業項目	21年度の実施結果	年度評価	次年度の課題等
				…モセウシ→ツルヨシ大株法： 1,584平方m、385株、匍匐 茎移植：100平方m、50本	○ 移植した株数は少なかった が、概ね予定どおり実施し た。	・ <u>22年度移植するカヤの生息状況の把握と適切な保育管理</u> ・ 外来種等の雑草を防ぐ対策及び 除草作業が必要。
空間 活用	体験 交流	体験交流事業 →アイヌ文化への理解の促進 を図るため、体験交流事業 を実施	コタン、イオルの 森等で体験交流を 実施	・ コタン、イオルの森等を活用し た体験交流を実施した。 ・ イナウ制作体験 8月5日～7日 一般8名、見物者76名参加 ・ トマ（ござ）編み体験 8月20日から11回 一般8名参加 ・ イユタの体験 2月21日（一般41名参加）	○ 体験交流を通じて、アイヌ文 化への理解の促進が図られ た。 今年度は、実践活動として出 来ることから事業を開始し た。地元、関係団体の協力が 得られ、次年度につながる展 開が図られた。	・ 計画に沿って、効果的に実施す る必要がある。
空間 管理 運営	管理 運営	管理運営事業 …平取町役場による関係機関 等との連絡調整	総合的に管理運営 するための関係機 関との連絡調整等 （沙流川流域イオル 構想平取町推進 協議会が事業の全 体調整、進行管 理）	・ 平取町役場が北海道アイヌ協会 平取支部、関係団体等との連絡調 整を実施した。 ・ 推進協議会 7回開催 …事業実施のための協議を实 施 ・ 専門委員会 13回開催 ・ 各検討部会 19回開催 ・ その他関連会議等（支部） 19回開催	○ 推進協議会が事業の推進管理 や関係機関との連絡調整を 図った。地域内での合意形成 に意を払っている。	・ 引き続き、推進協議会での合意 形成を図りながら事業を推進す る必要がある。
						（中長期） 事業実施の受け皿母体の検討と 組織化

平成21年度アイヌの伝統的生活空間の再生事業の状況

＜連携促進事業その他の取組＞

項目		事業名・事業概要	21年度の事業項目	21年度の実施結果	年度評価		次年度の課題等
連携促進	ネットワーク	ネットワーク	各地域のイオルの特性の分析、具体的連携方策等を検討、各地域の情報共有化等を図るネットワーク会議を開催	- 平成22年2月3日 ネットワーク会議開催 - 平成22年3月2日 ワーキング会議開催	×	各地域の特性の分析、役割分担、連携方策の検討、整理が進んでいない。	各地域の特性の分析、役割分担、連携方策の検討、整理
	ライブラリー	ライブラリー	地域における、アイヌ語地名、遺跡、伝承地、景観などの実態調査及びデータベース化	平取地域におけるアイヌ語地名、遺跡、伝承地、景観などの実態調査の実施	△	著作権等の整理が必要。	著作権等の整理とライブラリーの効果的な運用
	伝承者育成	伝承者育成事業	伝承者育成事業実施（2年次目）	（財）アイヌ民族博物館へ業務委託 - 熟練された伝承者の指導のもと、アイヌ文化に関する総合的・実践的知識や教養を身に付けるための「伝承者育成事業」→8名（道内7名、道外1）の受講者に対して、長期（3年間）のカリキュラムにより講義、実習、研修を実施。2年間の受講成果と3年目の目標等について受講生と面談。	△	- 受講中止者が出たことから今後の進め方についての検討が必要。 - 動植物の利用部位、採取時期、処理法、利用法を習得。自然素材を活用した手工芸等の技術を習得。 - アイヌ語の文法、アクセント、訳文、表記法の習得。 - アイヌ世界観を伝統儀式を通して習得。それぞれ目標を持って受講する意欲が伺えた。	- 事業終了後（平成23年度以降）の受講者終了者の活動の場の検討 23年度以降の伝承者育成の取り組みの検討
	調査	調査	カヤに関する情報の収集と、規制緩和等を含めた検討	（財）アイヌ民族博物館へ業務委託し、調査を実施。（平成22年1月～3月）	△	- アイヌの伝承文化に必要なカヤの植生分布状況の調査。調査地域…伊達、洞爺湖、豊浦、黒松内 - カヤ群落の分布状況を調査地の環境特性、現況図、写真等に記録した。	- 道内におけるカヤの植生分布状況の把握。 - 規制緩和等についての検討

項目		事業名・事業概要	21年度の事業項目	21年度の実施結果	年度評価	次年度の課題等
	規制緩和	規制緩和	規制緩和についての調査検討	＜森林管理局との相談内容＞ ○白老地域 平成21年7月 国有林地の無償貸付、立木の無償売り払いは、法令上困難。 平成21年7月 平成22年1月 保安林に指定されているため、有償使用許可により白老町が借り受ける方法が考えられる。 ○両地域共通 平成22年2月 各地域ごとの、植生、伝承活動実績を踏まえた伝承活動に必要な自然素材の必要量の調査がされていないため、まず、白老、平取の両地域に、平成21年の実績ベースで、地元の講座、サークル等の自然素材の使用実績の把握と、実績に基づく必要量の把握を依頼した。	× 調査が実施されていない。関係者の協力を得る上で前提となる、各地域ごとの植生、伝承活動実績を踏まえた伝承活動に必要な自然素材の量・過不足の把握等ができていないため、平成22年2月、白老、平取に平成21年実績ベースの把握を依頼した。 ＜参考＞ 21年7月 有識者懇談会報告書が土地資源の利活用を提言 21年9月 北海道森林管理局がアイヌ文化の伝承に係る国有林の迅速な対応方を各森林管理署に周知 21年10月及び22年2月 北海道森林管理局がアイヌ文化の伝承に係る国有林の迅速な対応方を全道の（支）署長会議で周知	- 利活用にに向けた関係者の連携促進 →有識者懇談会が提言する「土地・資源の利活用」の観点から、アイヌ協会が関係者と意見交換を行っているので、イオル事業について財団も加わり情報共有を図る。 また、イオル事業の推進には、地元関係者の連携が重要。引き続き、関係者との連携に努める。例えば、伝承活動等のうち体験交流事業などで「利活用」の視点から関係者と連携を深める。 - 自然素材の必要量等の把握 →関係者の協力を得る前提となる各地域の必要な自然素材、使用量等の把握が必要。そのため、まず、白老、平取の両地域の実績、自然素材の使用量等を把握する。 （中長期） - 白老、平取以外の地域の活動実績、自然素材の使用量等を把握する。